

アイパル通信

2007

1

アイパル (I-PAL) の意味

アイは愛や国際交流 (International Exchange) を、パルは友達や仲間という意味を表し、アイパル香川が国際交流に関係するひとの拠点となるイメージを表現しています。

特集 アイパル映画祭
報告 日本語弁論大会
パラグアイ国日本人移住70周年
記念祭典等参加香川県訪問団

I-PAL NEWS
Information (県内イベント情報)

Ipal film festival 2007

アイパル映画祭2007

開場：18：20～ 上映開始：18：50～



【ココシリ】



【oi ビシクレッタ】



【ベルヴィル・ランデブー】



【母たちの村】

●前売りチケット取り扱いについて

場 所：アイパル香川 (087-837-5908)
ホール・ソレイユ (087-861-3366)
発売期間：2007/1/12 (金) ~ 2007/2/7 (水)
料 金：4枚セット ¥3,200 2枚セット ¥1,800
1枚 ¥1,000

●期間中・当日チケット取り扱いについて

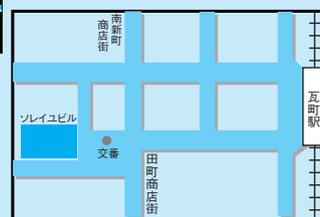
場 所：アイパル香川&ホール・ソレイユ
料 金：1枚 ¥1,200

●information

アイパル香川 (財)香川県国際交流協会 (9:00~18:00)
〒760-0017 高松市番町1-11-63 Tel: 087-837-5908
なお、月曜日 (月曜日が休日の場合はその翌日の火曜日) はお休みです。



※チケットは映画、上映日の指定はありません。



2月8日(木)

『ココシリ』 中国、88min、2004年

第17回東京国際映画祭 審査員特別賞受賞

第41回台湾金馬獎 最優秀作品賞／最優秀撮影賞受賞 他



壮絶な大自然の中で、命をかけて美しいものを守ろうとした男たちがいた……。

チベット語で『青い山々』、モンゴル語で『美しい娘』を意味するココシリ。海拔4,700メートルの山肌に、神聖なほど美しく、想像を絶するほど過酷な大自然が広がるこの無人地帯は、中国最後の秘境として知られている。そんなココシリの山中で、チベットカモシカの密猟者との戦いに、命を懸ける男たちがいた。最高級毛織物の元になるカモシカが、密猟者の乱獲によって激減する事態を憂い、民間のマウンテン・パトロールを結成した隊員たちだ。無償で隊に志願した彼らは、神が祖先に与え、祖先が自分たち

に残してくれたこの自然を、次の世代にも引き継いでいきたいという熱い思いを胸に、死と背中あわせの危険な任務に挑む。

この映画は、そんな男たちが繰り広げる壮絶な戦いを、180日にもおよぶ現地ロケという圧倒的なスケールにのせ、ダイナミックかつスリリングに描き上げた真実のドラマの映画化である。現地の海拔は富士山よりも高い4,700メートルで、空気は北京の1/3ほどの薄さ。100名ほどのスタッフのほぼ全員が急性の高山病に苦しみ、点滴を打ちながら撮影を続けたというほど過酷な条件での撮影となった。

中国政府を動かした、知られざる感動の実話——

2月15日(木)

『oi ビシクレッタ』 ブラジル、85min、2003年

Festival Cinema Brasil 2005 in Tokyo 公式上映作品

**自転車で3,200km、
ブラジルで本当にあった話を映画化！**

ブラジル北部のパライバ州にある“世界の中心広場”。ここがこの途方もない旅生活の出発点となる。無学で頑固なトラック運転手ロマンは、自らを“運命の男”と信じ、失業中でありながら月1,000リアル（約400ドル）稼ぐ仕事に就くことを決意。愛する妻ローゼと、6ヶ月の赤ん坊を含む5人の子どもたちを連れ、リオ・デ・ジャネイロを目指し、自転車で旅を始める。

途中、ガソリンスタンドで野宿をしたり、親切な夫婦に助けってもらったり、仕事を探すがロマンに代わり、ローゼが内職で日銭を稼いだりしながら旅を進めていくが…。

はたして彼らのたどり着いた先には何が見えるのか——。



**ブラジル縦断。家族は7人、自転車はたったの4台!?
とっても無謀な家族の実話**

ブラジリアンポップの帝王『ロベルト・カルロス』。道中辛いときに、家族が口ずさみ、元気づけられる曲はすべて彼の名曲。最後にテレビモニター画面でちらりと登場する彼は、本作の脚本を一読して、曲の使用を快諾。ブラジルの国民的歌手で長年絶大な人気を誇っている彼が、自分の出演作以外で曲を提供するのは本作が初めて。

2月20日(火)

『ベルヴィル・ランデブー』 フランス・カナダ・ベルギー、80min、2002年

2003年アカデミー賞 2部門ノミネート 長編アニメーション映画賞、歌曲賞

2003年全米各都市の映画批評家協会賞 最優秀アニメーション映画賞、最優秀作曲賞などを受賞 他多数受賞



溢れるようなおばあちゃんの愛—— 大切な孫を救うための大冒険

戦後まもないフランス。内気で友達もできない孫のチャンピオンを不憫に思ったおばあちゃんは、ピアノやおもちゃを買い与えたが、彼はなかなか興味を示そうとはしない。そんなある日、チャンピオンが自転車に対して強い興味を抱いていると知ったおばあちゃんが、三輪車を贈ると、彼はそれに夢中になっていく。そして来る日も来る日も厳しいトレーニングを重ね、ついにチャンピオンは自転車レースの頂点『ツール・ド・フランス』に出場するまでに成長する。

ところがそのレースの最中に、チャンピオンは謎の男たちに誘拐され、行方不明に。そこでおばあちゃんは愛犬ブルーノと共に、彼を捜して大海原を越え、摩天楼のそびえ立つ大都市“ベルヴィル”にたどり着く。

はたして、おばあちゃんとブルーノは、最愛の孫チャンピオンを救うことができるのか？

映像が凄い！ キャラクターが凄い！ 音楽が凄い！

極端にデフォルメされたキャラクターと乗り物、精密な背景、独特の色彩感。そしてテンポある画面とそれにマッチした音楽。「大人」も楽しめて、また見たくなるようなアニメーションです。

2月22日(木)

『母たちの村』 フランス・セネガル、124min、2004年

第57回カンヌ国際映画祭 ある視点部門グランプリ受賞

2004年マラケシュ国際映画祭 ゴールデン・スター賞ノミネート、特別審査員賞受賞 他

ある日、女たちは立ち上がる。 娘たちのために、未来のために。

西アフリカの小さな村で、コレは第一ママ、第三ママや子どもたちに囲まれ、いつもと変わらぬ穏やかな朝を迎えていた。この村では古くから伝わるお清めの儀式として、女の子は割礼を受けることが決まりとなっている。ある日、4人の少女が割礼を嫌がり、“モーラーデ（保護）”を求めてコレのもとへと逃げ込んでくる。そして、コレは少女たちを保護する決意をする。伝統に逆らうことなど問題外のこの村での前代未聞の出来事に、村の男たちは困惑し、大混乱となる。そんななか、ついに母たちは娘たちのために、そして未来のために、この風習を廃止しようと立ち上がる——。



『アフリカ映画の父』ウスマン・センベエヌ監督の感動の最新作

ある小さな村で起こる出来事を通じて、アフリカ社会が抱える問題を浮き彫りにすると共に、「尊重し合い、勇気を持って生きること」の大切さを私たちに教えてくれる、愛と感動の人間賛歌。

在県外国人の語る「日本」を聴こう

～日本語弁論大会より～

2006年9月16日（土）、アイパル香川で「第17回外国人による日本語弁論大会」が開催されました。事前審査を経て、アルゼンチン・ネパール・バングラデシュ・韓国・中国の5カ国10名の在県外国人の皆さんが香川や日本についての印象や日常生活での体験等を日本語で発表しました。その中から入選された方々のスピーチをご紹介します。

香川県知事賞

「食育は家庭から」

陳 春花（中国）



皆さん、こんにちは。私は中国の青島より企業研修生としてまいりました。陳春花と申します。

皆さん、食育という言葉をご存じですか？私は初めて食育という言葉に耳にした時、全く意味がわかりませんでした。「食べる」に「育つ」と書いて食育です。色々なメディアで耳にされることも多いと思います。食べるものがない貧しい国ではなく、なせものが溢れている日本で今更食育なのでしょう。

ある日私は近所の子ども達に通う保育園の給食に招待されました。給食は中国でも幼稚園で大分普及してきましたが、私の子どもの頃、給食というものはありませんでした。ですから私にとって生まれて初めての給食でした。子ども達は一緒に食べながら、「お姉ちゃん、お姉ちゃん」とたくさん話しかけてくれました。子ども達より遅く食べ終わった私に「お姉ちゃん、遅いよ」ととても楽しい時間でした。メニューは肉、豆腐、野菜など、バラエティに富んだものでした。「毎日こんなにおごちそうなの？」「うん」「おいしい？」「給食大好き」周りのたくさんの子どもの中にはあまり箸が進まない子もいます。「どうしたの？」と聞くと、「きゅうりが嫌い」との返事でした。先生にお聞きすると、「嫌いなものでもアレルギーがある以外は、半分は食べさせます。そうするとだんだん食べられるようになってくる子もいます」とのことでした。

今、家庭では親が忙しく、夜型の生活で起きられないため、朝ご飯を食べず、また子どもの好きなものだけしか食べさせない親もいるそうです。子どもの中には給食で1日の栄養のバランスを取っている子もいると聞いていました。お母さん達は色々な食材を使って料理をつくり、体にはどんな栄養が必要なのか、ただお腹がいっぱいになればいいというのが食事ではないということなどを、親子の対話の中で教える必要があると思います。

青島も高松も海が近くにあります。新鮮な海の幸が豊富です。でも子ども達は調理の簡単な焼き肉やハンバーガーなど、肉類を好む傾向があります。食生活の乱れにより、学力は低下し、キレやすい、また肥満などの生活習慣病にかかる子ども達が増えてきています。子ども達に食に対する興味を持たせるために、色々な新鮮な食材を見せることも重要です。スーパーでは魚の美しい切り身がパック詰めになっていて、魚本来の姿を見たり、触れたりする機会を子ども達から奪ってしまいました。幸い、高松には「いただきさん」という魚の行商の文化が残っています。「いただきさん」の魚は朝、捕ったばかりなので、新鮮です。特にいいのはその魚に合った調理法を教えて貰えることです。子どもにもほんとうの自然な魚の姿を見せたり、触れさせたりするいいチャンスです。子ども達は食材としての魚に興味を持ち、食べてみようという気持ちを起こさせるのではないのでしょうか。

私達のおじいちゃん、おばあちゃんの時代から家庭に受け継がれてきた家庭料理は、高価な材料を使った豪華な食事ではなく、どこにでもある普通の材料を生かした、平凡な料理です。しかし飽きずに食べられ、疲れた時に食べたくなるのは、やはりその家庭料理ではないのでしょうか。おばあちゃんやお母さんが心を込めてつくってくれた家庭料理に、家族みんなで舌鼓を打つ時、みんなの笑顔と楽しい会話が生まれ、子ども達が一番幸せを実感し、食事がおいしいと思えるひとときではないのでしょうか。そんななんでもない食生活が穏やかで、キレない、快活な子どもを育てると思います。

私は今年12月で研修生活を終え、帰国します。将来、妻になり、母となるであろう私は、大事な家族を守るため、栄養のバランスを考えて料理し、家族全員揃って一緒に食事することの楽しさを伝えていきたいと思っています。ご静聴、どうもありがとうございました。

高松キワニスクラブ会長賞

「友達とチング」

金 啓愛（韓国）



私は金啓愛と申します。昨年4月韓国から来ました。今、四国学院大学に留学しています。よろしくお願ひします。

ある日私が日本人の友達を家に招待した時のことです。私が鍋料理や韓国の海苔を出し、「食べて」と勧めました。すると彼女は「ありがとう。1枚もらうね」と言って食べまし

た。その次も、またその次も彼女は海苔を食べる度に、「1枚もらうね」と言い続けました。わざわざ言わなくてもいいのに、なぜか言い続けるのです。また彼女のお皿に何も無いことに気づき、「もっと食べて」と言うと、彼女は「ありがとう。食べてもいいの？」と言いました。私はそれまで食べ

てはいけないなんて一言も言っていないのに、私はその言葉にとても驚きました。最後に彼女はトイレに行き、私に「ありがとう。ごちそうになったのにトイレまで借りてごめんね」と言うではありませんか。そう言われた時、私の顔は笑ってはいましたが、トイレを使うことぐらい当たり前のことじゃないと思いました。私はこの友達に対して、正直、面倒くさいなと思いました。

「友達なら『ありがとう』と言わないものだ」「愛している人には『ごめん』と言わなくてもいい」韓国ではこんな言葉がよく使われ、ドラマや映画のセリフにもよく出てきます。実際に韓国人は友達に「ありがとう」と言うことも、そして言われることも苦手です。その「ありがとう」という言葉によって、友達との心理的距離を感じるからです。もちろん韓国でも親しくない人には挨拶をするのですが、友達なら挨拶しなくてもいい。友達だからこそ挨拶しなくてもいいと考えます。ですから私がこの友達との間に距離を感じたことも、面倒くさいなと思った気持ちもわかっていただけたと思います。

日本人はというと、小さい頃から「迷惑をかけた時は謝りなさい」とか、「他の人にちゃんと挨拶しなさい」など、挨拶の大切さを教えられると聞きました。最初は私とあまり親しくないから「ありがとう」と言っているのだと思っていました。しかし多くの友達が親しくなっても「ありがとう」を使い続け、日本人は友達同士で「ありがとう」や「ごめんね」という言葉を用いて、親しい間柄でも礼儀を守るのだということに気がきました。

また、この1年半の留学生活で、日本人はあまり自分のこと

を友達にオープンにしないなと考えます。「私、〇〇君とつきあっているよ」なんてことは、あまり自分からは言わないと思うのです。実は韓国人は全く反対で、自分のことを友達に話し、そしてまた相手のことを聞いて、仲良くなっていくのが韓国人です。親しくない人にも、その人について色々質問することは、相手に対して関心を持っていることの表れであり、韓国式礼儀です。私もプライベートなことを聞かれ、たまに答えにくいこともあって、その答えをごまかしたりすると、相手に「友達なのに言ってくれないの？」と責められることもあります。

こんな韓国人を日本人が見ると、あまりお礼も言わないし、謝りもしない、プライベートなことを直接的にずけずけと質問してくるし、聞いてもないのに自分のことをペラペラと話す、そう思うかもしれません。日本語で友達、韓国語でチング、同じ友達でも、その友達同士の距離は少し差があるようです。

日本に来て1年半、最初は「ありがとう」という言葉に面倒くさいなと思っていましたが、その「ありがとう」という言葉で、お互いがいい気持ちになれるということに気がつき、それ以来、私の意識も変化しましたし、行動も大きく変わりました。日本人が自分のことをオープンにしないということには、まだまだ距離を感じますが、「親しき仲にも礼儀あり」は実行しています。今日ここにいらっしゃる皆さんも、韓国人の友達関係に学ぶところがあると思ってくださったら、是非、行動に移してみてください。ご静聴、ありがとうございます。

高松ゾンタクラブ会長賞

「日本とネパールの結婚について」

ビンドウ パンディット タバ (ネパール)



皆様、こんにちは。私はビンドウと申します。ネパールからまいりました。私のタイトルは「ネパールと日本の結婚について」です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は日本で6ヶ月暮らして、たくさんの家族や女性に会ったり、色々なことを話したりしました。その中で一番驚いたことは、結婚についてです。

まずは結婚する前のことです。今の日本の女性は大体25歳から35歳で結婚する人が多いですが、大体結婚する前に大学を出て、仕事をしたりしています。そして結婚するまで6ヶ月から4年ぐらいつきあいます。日本のつきあい方の中で私が一番びっくりしたことは、自分の恋人を自分で選ぶことです。その時相手に色々な問題があれば、他の人を選びます。また、結婚しないのに、一緒に住む人もいます。反対にネパールの女性は町では大体20歳から25歳、村では15歳から20歳で結婚します。村の女性が早く結婚する理由は、勉強もしていないし、仕事もしていないし、お金もないからです。そして結婚する前に男の人とつきあいません。自分の主人は親や家族が決めるので、自分で決めることができないのです。ですから結婚した後に、色々な問題があります。たとえばお金もないから、買い物も主人や主人の親にお願いして、お金をもらわなければなりません。ですから私は日本のこのスタイルはいいと思います。結婚する前につきあえば、相手のことがわかるので、自分に合ういい人を選んで結婚することができと思うからです。

次にネパールでは結婚する前に子どもを生む人はほとんどいません。しかし日本では多いと聞きました。私は結婚する

前に子どもを生むことはよくないと思います。結婚する前に子どもを生むと、勉強もできないし、仕事もできないし、もちろんお金もありませんから、子どものためにもいい世話ができないと思います。

次は結婚した後のことです。ネパールでは仕事がある人は結婚した後、親や家族から離れて暮らします。でも仕事がない人は、結婚した後でも親と同居します。これはとても一般的なことです。その時、親がお金や子どもの世話をしてくれるので、とても暮らしやすいです。しかし日本は結婚した後に、自分の両親や兄弟から離れて住む人が多いです。自分の主人は大切ですが、主人の親のことを好きではない人もいます。一緒に暮らさないことには、いい点と悪い点があると思います。たとえばいい点は、二人だけでお金の管理ができます。そして両親に気を遣うこともないし、出かける時や、買い物をする時、許可がいりません。二人で自由に動くことができます。反対に悪い点は、親からお金や子どもを世話してもらえないというサポートがありません。昔のこととか、伝統的なこととか、子育ての知識を教えてもらうこともできません。また、両親との関係が薄くなります。そして子どもがいて、二人に仕事があったら、子どもの世話をする人がいないので、育てるのがたいへん難しいです。

最後は離婚です。日本の女性は結婚した後に、もし深刻な問題があれば、離婚することもできます。離婚は悪いこととは考えないので、もう一度結婚することもできます。日本では大体100%の人が教育を受けているので、仕事をしたり、自分でお金を稼いで一人で生きていくこともできます。しか

しネパールは女性の42%の人しか教育を受けられませんから、仕事に就くこともできなくて、お金を稼ぐこともできません。ですから離婚は全く考えられません。そして家族や社会は離婚した女性を認めないし、サポートしないので、苦しんで自殺をする人もいます。私は、離婚はよくないと思います。もちろん深刻な問題がある時、一緒に住むことは難しいです。でもすぐに離婚してしまうのではなく、二人でたくさん話したり、両親や友達に相談して、ゆっくり考えた方がいいと思

います。

ネパールと日本の結婚は全然違いますが、どちらもいい点と悪い点がありますから、私は国に帰ってから、日本の結婚のいい点をネパールの女性に伝えたいと思います。もし、ネパールの女性が日本の女性と同じ男女平等になったら、自立することができますし、国も発展することができると思います。皆さんも日本の結婚のいい点を守って、悪い点を変えて頑張ってください。どうも、ありがとうございました。

財香川県国際交流協会理事長賞

「この星はひとつの国」

フサイン エムディ イクラムル (バングラデシュ)



皆さん、こんにちは。バングラデシュから来ましたイクラムルと申します。高松工業高等専門学校電気情報工学科の4年生です。きょうは国際交流の必要性について、私の意見と経験を話したいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

私が日本に来てから、もう2年半経ちました。この2年半は時間的には短いのですが、経験的には長いのです。子どもの頃外国についての話と、おじいさんから聞いた昔話は同じように聞こえました。国境は自然に存在するなんらかのすごいものだと思っていました。それは子どもの時代の話で、少し大きくなってから、外国のことをもっと知るようになったのですが、経験がなく、実際はどうなのか、何の見当もつかなかったのです。

そして2004年4月2日に実際に国境を越えた瞬間を飛行機から見ると、実際は二つの国の間に何の印もなかったのです。その時思いついたのがこんなこと、この星全体で一つの国だということです。昔から今までほんの少ない意地の悪い人々によって、こんなにばらばらにされたのです。そんなことを思いながら日本にやって来ました。

そして日本語は全然できないし、日本のことはほんの少ししか知らないまま、日本で生活を始めました。どうやって生活していけばいいのか、今、考えてみると驚きます。日本語学校の先生達や国際学生会館のみんなの協力があってこそ、できたのです。言葉が違っていても、人間の心はどこでも通じることをしみじみと感じました。

東京では同じ寮生で8人のバングラデシュ人がいたので、日本語を使う機会はあまりなかったのです。そこでもっと日本の文化や日本語を学ぶために、時々交流会に参加しました。母国にいた時、交流という言葉は、滅多に聞くことがなかったし、またバングラデシュ人や他の外国人仲間達と生活していたので、正直、交流に対してあまり関心がなかったのです。しかもなぜ交流はしなければならないのかも、わからなかったのです。

それから1年後に高松に移ってきました。新しい場所に来るのにやっぱり不安と夢、両方ありました。新しい出会い、新しい友達という夢と共に、寂しくなるとか、暮らしが便利ではなくなるとか、そういう不満がありました。そして高松での生活が始まって、勉強などで少し忙しくなりました。しかしここは一人だけなので、勉強だけでは生活に楽しみがありません。そこで今回も色々な交流会の皆さんと出会いました。高松高専の留学生全員の日本人のお父さんと焼き肉大会やボウリングへ行ったりして、楽しい時間をいっぱい過ごしました。

また、丸亀ユネスコや色々な交流会の行事に参加しながら、日本人とのふれあいも一気に多くなりました。他の留学生との出会いもあり、時間の流れが速いと感じるようになりました。

しかし留学生の生活を楽しくするだけが交流の唯一の目的だという考えには、私は納得できなかったのです。日本語学校の時、日本語を学ぶとか、日本の事情を知るとか、そういう目的もあったのですが、もっと大きな目的があるのではないかと思っていました。そして頭の中で、こんな疑問を持ちつつ、様々な交流会に参加してきました。

そんな時ある人に教えて貰いました。なぜ交流が必要なのかの答えを。その人の名前や顔を忘れてしまいましたが、その人が教えてくれたことは一生忘れません。

世の中は数千もの言語があり、何千もの民族があります。昔から民族と民族の間にたくさんの戦争がありました。自分の民族の考え方が正しく、他は間違っているという理由で起きた戦争が最も多いでしょう。お互いの暮らし方や考え方をわからず、自分だけの考え方を信じ込む人にとって、それは当然のことです。人間は知らないことに対して、誤解や恐怖を持つものです。嫌うものや、怖がるものをなくすという考え方も、人間にとっては当然です。そのためたくさんの民族が、他のわからない考え方を持つ民族をなくそうとして、多くの戦争を起こしてきました。

これはまさにキリスト神話のパベルの塔の話と同じようです。その話によると、昔パベルという王国が経済や技術で大きく進歩していて、国の王様が天国に入るため階段をつくり始めた。何万もの労働者が集まっていて、どんどん階段をつくり続けていた。そして神様がこれを見て、怖くなり、勝手に天国へ入るのを防ぐために、労働者達をいくつか違った言語を話すようにした。つまり今まで同じだった労働者達の中に、いくつか民族をつかった。そして一つの民族の話す言葉がわかる民族がわからなくなり、誤解してお互いに怒ったりして、喧嘩が始まり、それが結局、戦争になった。そしてみんなはその塔を壊し、それぞれの民族が別々の場所で生活を始めたそうです。

皆さん、このように今の世界を見ると、全く同じことが起きているのではないのでしょうか。そこで民族と民族の間の誤解をなくするのが交流の第一目的だと気づき、やっと自分が納得できるような答えを見つけたと思いました。それがこの人が教えてくれたことです。

戦争なんかがないような世界をつくるために、人と人の間、そして民族と民族の間に、誤解のない、お互いの心や考え方をわかりあうようにするのが、最も重要だと思います。だから交流や異文化経験が必要なのです。皆さんももっと安全な、そしてもっと平和な世の中をつくるために、もっと他の民族のことをわかりあう努力を続けてください。以上で私の今日の話が終わらせていただきたいと思います。皆さん、聞いてくださってありがとうございました。

報告「パラグアイ国日本人移住70周年記念祭典等参加香川県訪問団」



「パラグアイ国日本人移住70周年記念祭典」

「パラグアイ国日本人移住70周年記念祭典」等に出席するため、筒井敏行県議会議長、川北文雄前副知事らが、南米香川県人会の活動を支援し、本県との友好親善関係の強化を図るため平成18年9月5日（火）から9月17日（日）までパラグアイ共和国等を訪れました。

18年9月8日（金）パラグアイ共和国で開催された「パラグアイ国日本人移住70周年記念祭典」では、地元アスンシオン及び移住地からの出席者を中心に内外から約1,200人が参集し、筒井県議会議長が香川県を代表して祝辞を述べるとともに、県訪問団、平井孝吉パラグアイ県人会会長をはじめ、菅原農夫男ブラジル県人会長、真木信明アルゼンチン県人会会長ら南米諸国の県人会関係者も出席し、今後のさらなる友好交流を誓いました。

席上では、県人会の平井庸子さんが外務大臣表彰を、岡本照子さんが祭典委員会表彰を受けられました。

また、県人会の交流会に出席し、日系人の福祉の向上と、移住先国の親善の増進に寄与されている方を表彰するとともに、県人会の一層の発展と協力が深まるよう交流を図りました。また、11名の元技術研修員が参加した報告では、教育現場や研修先で習得した日本の技術等が帰国後の仕事に役立っていること等の報告も受けました。この他、日系社会福祉センターでは、日系人診療所視察の後、福祉センターに関する管理運営等について懇談を行うとともに、人づくりセンターでは、体育施設、音楽室等教育施設を視察しました。

アルゼンチンにおいても同様に県人会との交流会や技術研修生の報告会に参加し、帰国後の成果等について報告を受けるとともに、日本大使館や JICA（国際協力機構）の事務所等を訪問し、国際交流や国際協力、現地での大使館や JICA の役割等について、幅広い意見交換を行いました。また、訪問したブエノスアイレス日亜学院では、真木理事長（アルゼンチン県人会会長）から、ブエノスアイレスの実力校として育て上げたいとの抱負や学院の沿革、教育理念等について説明を受けました。

南米に行く途中、往路ニューヨーク、復路ロサンゼルスにも立ち寄り、それぞれの香川県人会の方々との交流会に出席するとともに、ロサンゼルスでは、(株)ソニー・ピクチャーズエンタテインメントを訪問し、知事の親書や収集した署名の半分に当たる4万2千人分の署名簿などを渡し、007映画誘致の要望活動を行いました。ソニーのキャンティオン副社長からは、12月のクリスマス後には制作元である「イオン・プロダクション」と次回作について協議するので、その中で香川の要望活動について話をしたいとのコメントがありました。

今回の訪問では、移住された皆様が苦勞を重ね、困難を克服し活躍されている様子や、ふるさとに対する強い思いをお聞きし、胸が熱くなるとともに、お互いを思いやる気持ちは、永遠に変わることはないことを確信しました。今後県人会との友好を一層深めるとともに、幅広い交流を通じ県人会の活動を支援し、友好親善関係を強化する必要性を改めて感じさせられました。



「ソニー・ピクチャーズエンタテインメントにて」



連さんの二胡ミニコンサート

11月18日（土）にアイパルプラザでアイパル中国語講座上級講師の連仲友さんと2003年に結成された中国二胡“華友”による二胡ミニコンサートが開かれました。約120名の方にご来場いただき、草原のメロディ、蘇州夜曲などの中国の曲や荒城の月、紅葉などの日本の童謡などを演奏し、すてきな音色を届けてくれました。

お申込み、お問い合わせはアイパル香川まで、電話等で。
 有料講座は受講料を添えてアイパル香川まで。
 TEL: 087-837-5908 (月曜休館、月曜祝日の場合はその翌日)
 ホームページ: <http://www.i-pal.or.jp/>

**アイパル香川外国語講座
1月期開講中(無料見学実施中!)**

1月期は1月10日(水)から始まり、英語、スペイン語、中国語、フランス語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語、イタリア語 全8ヶ国語37クラスの講座が行われています。

入門、初級、中級、上級などそれぞれのレベルに合わせたクラス選択ができます。また時間帯も10時~12時、13時~15時、18時~20時などいろいろありますので、都合の良い時間帯をお選びいただけます。なお、講座は4月期、9月期、1月期となっており、年3回受講者の募集をしていますが、9月期及び1月期は継続受講者を優先とします。

詳細はアイパル香川までお問い合わせください。

外国人のための人権・法律相談

弁護士、人権擁護員等が相談に応じます。
 ◆日時: 1月19日(金)、2月16日(金)、3月16日(金) いずれも13:00~15:00
 ◆場所: アイパル香川会議室
 ◆申込: 事前予約が必要です

I-PAL カフェ

新しい国際交流員のアンディとベンを迎え、5カ国5人の国際交流員とお茶やお菓子を楽しみながらフリートークで楽しく交流しませんか?

◆日時: 1月27日(土) 13:30~15:30
 ◆場所: アイパルプラザ (アイパル香川1階)
 ◆参加費: 500円
 ◆申込: 事前の申込は不要です。お気軽にどうぞ。

宋鋒の「故事から学ぶ中国語講座」

中国の諺の由来には有名なエピソードが語られることが多くあります。そういう故事成語や諺を通して中国語を学ぶ講座です。

◆日時: 1月31日(水) 18:00~19:30
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆講師: 香川県国際交流員 宋鋒 (中国出身)
 ◆受講料: 500円 (テキスト代含む)
 ◆定員: 30名 (先着順)

**ペトラの「すぐに役立つ
プチ・ドイツ語講座」**

ドイツを旅行したときにレストランなどでマナーや注文の仕方など、すぐに使えるドイツ語を学ぶ講座です。

◆日時: 2月3日(土) 10:00~11:30
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆講師: 香川県国際交流員 ペトラ・ナーゲル (ドイツ出身)
 ◆受講料: 500円 (テキスト代含む)
 ◆定員: 30名 (先着順)

**ベンジャミンの
「新聞から学ぶ英会話講座」**

英字新聞で使われる英語、特に表題などは短くまとめるため特殊な言い方をすることがあります。そういうトピックスを題材にしなが、英語を読んだり話したりする講座です。

◆日時: 2月7日(水) 18:00~20:00
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆講師: 香川県国際交流員 ベンジャミン・ブラウン(アメリカ出身)
 ◆受講料: 1,000円 (テキスト代含む)
 ◆定員: 30名 (先着順)

**アンドリューの「フィルム
で学ぶ英会話講座」**

映画で話題になった作品を通して、そのロケ地となった場所などの案内を折り込みながら、英会話を学ぶ講座です。

◆日時: 2月10日(土) 10:00~12:00
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆講師: 香川県国際交流員 アンドリュー・コバーン(イギリス出身)
 ◆受講料: 1,000円 (テキスト代含む)
 ◆定員: 30名 (先着順)

**目からウロコ!
あっと驚く世界の文化**

①韓国!お正月料理
 ◆日時: 1月18日(木) 11:00~14:00
 ◆講師: 鄭 恵敬(韓国)
 ◆場所: 香川県社会福祉総合センター6階 調理実習室
 ◆受講料: 1,500円 (材料費込み)
 ◆定員: 20名 (先着順)
 ②中国の結び
 ◆日時: 1月19日(金) 13:30~15:00
 ◆講師: 宋 鋒(中国)
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆受講料: 500円
 ◆定員: 30名 (先着順)

③アンディの簡単イギリス料理
 ◆日時: 2月21日(水) 14:00~16:00
 ◆講師: アンドリュー・コバーン (イギリス)
 ◆場所: ヨンデンプラザ (サンポート)
 ◆受講料: 1,000円 (材料費込み)
 ◆定員: 16名 (先着順)
 ④ベンと作る!お手軽メキシコ料理
 ◆日時: 3月1日(木) 14:00~16:00
 ◆講師: ベンジャミン・ブラウン (アメリカ)
 ◆場所: ヨンデンプラザ (サンポート)
 ◆受講料: 1,000円 (材料費込み)
 ◆定員: 16名 (先着順)
 ⑤ドイツの博物館めぐり
 ◆日時: 3月6日(火)、13日(火) 18:30~20:00
 ◆講師: ペトラ・ナーゲル (ドイツ)
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆受講料: 2回で1,000円
 ◆定員: 30名 (先着順)

映像から学ぶ、世界の文化

◆中国編 (宋 鋒)
 2月6日(火) 18:00~20:00
 ◆アメリカ編 (ベンジャミン・ブラウン)
 2月10日(土) 10:00~11:30
 ◆イギリス編 (アンドリュー・コバーン)
 2月24日(土) 10:00~11:30
 ◆ドイツ編 (ペトラ・ナーゲル)
 2月28日(水) 18:30~20:00

(各講座共通)
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆受講料: 500円
 ◆定員: 30名 (先着順)

国際協力セミナー

今年も国際協力セミナーを開催します!
 ゲームやワークショップを通して世界の現状やミレニウム開発目標をより分かりやすく具体的に伝える方法を学びます。国際理解に興味のある方、ぜひこの機会にご参加ください。

◆日時: 2月3日(土) 10:00~16:00
 ◆場所: アイパルプラザ (アイパル香川1階)
 ◆対象: 教育関係者及び国際交流・協力団体関係者、一般県民の方
 ◆定員: 30名
 ◆共催: 独立行政法人国際協力機構四国支部
 ◆協力: NPO法人セカンドハンド
 ◆申込: 電話・FAXまたは直接アイパル香川へ

Information

世界共通語エスペラントの講習会

◆日時: 1月28日(日) 第2会議室
 2月25日(日) 第2会議室
 いずれも13:30~15:30
 ◆場所: アイパル香川3階会議室
 ◆講師: 初級 小阪 清行 (語学教師)
 中級 ヒルコ・ミドゥマ (語学教師、オランダ出身)
 ◆会費: テキスト代 500円
 ◆申込: 不要 (定員なし)
 ◆問合せ: 小阪 Tel/Fax: 0877-22-4771

諺問ドリアンクラブの例会

国際交流に関心がある人達が毎月1回集い、楽しいひとときを過ごします。
 ◆日時: 毎回13:00~15:00
 1月21日(日)楽しい手打ちうどん
 2月期日未定 日帰りバス旅行

3月18日(日)コロンビアの紹介と簡単なスペイン語会話
 4月15日(日)新留學生の歓迎会
 ◆場所: 松崎コミュニティセンター(詫間駅東側)
 ◆会費: 500円
 ◆問合せ: 矢野 伴治
 Tel/Fax 0875-83-5289
 e-mail: yano 99627@yahoo.co.jp

丸亀リンゴクラブの例会

国際交流に関心を持つ人々が月に一回集まり、外国人ゲストの話を聞き、英語による意見交換を通して、国際理解・感覚を深め、育てる会です。只今、新会員募集中。年齢は問いません。
 ◆日時: ①1月21日(日) ②2月18日(日)
 ③3月11日(日) ④4月15日(日)
 毎月第3日曜日。時間はいずれも14:00~16:00
 ◆場所: 丸亀市生涯学習センター4F第3講座室
 ◆ゲスト: ①ジェレミー・ランニング(アメリカ)
 ②ニッキー・デイズニィ(イギリス)

③サニーブライアン・キャスター(アメリカ)
 ④クリスチコ・マーケイブ(アメリカ)
 ◆トピック: ①世界におけるタトゥーの歴史について
 ②イギリスの宗教について
 ③ルネッサンス文学について
 ④イギリス文学について
 ◆参加費: 1回 1,000円
 ◆問合せ: 藤村 隆
 Tel: 0875-83-4654

丸亀 ESS

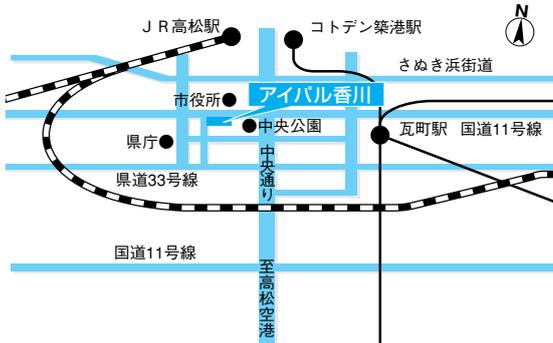
毎週違ったネイティブ講師を招き、様々なトピックで英語を通して異文化コミュニケーションを深めます。17歳から70歳代まで幅広い年齢層の方が参加しています。
 ◆日時: 毎週土曜日 (18:30~19:30)
 ◆場所: 丸亀市生涯学習センター4F
 ◆講師: ネイティブ講師 (毎週交代)
 ◆会費: 5,000円 (3ヶ月で)
 ◆問合せ: 宮西 Tel: 0877-28-5215

アイパル香川

香川県国際交流協会
 〒760-0017
 香川県高松市番町1丁目11番63号
 TEL 087-837-5908 FAX 087-837-5903
 開館時間/火)~(日) 9:00~18:00
 休館日/月曜日・12月29日~1月3日
 (月曜日が休日の場合は開館し原則として翌日の火曜日が休館)

I-PAL KAGAWA
 KAGAWA INTERNATIONAL EXCHANGE CENTER

1-13-63 Bancho Takamatsu Kagawa
 OPEN/TUE~SUN 9:00~18:00
 CLOSED MON・DEC.29th・JAN.3
 If monday is a public holiday,
 the center will be opened on this day.
 But closed on the following day.



あけましておめでとうございます。
 2007年の幕開けです。今年の干支はのし。猪突猛進、元気に跳ねるいのし。のように、今年もがんばりましょう。

2007年1月号・通巻第95号
 編集・発行

(財)香川県国際交流協会
 E-mail: i-pal@i-pal.or.jp
 URL: <http://www.i-pal.or.jp/>
 高松市番町1丁目11番63号
 TEL.087-837-5908 FAX.087-837-5903